

去る4月19日（火）、3年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果が届きました。以下に、教科別の結果・傾向についてご紹介します。

	A問題 主として「知識」に関する問題	B問題 主として「活用」に関する問題
国語	山口県 全国平均をやや上回る 本校 全国平均を上回る	山口県 全国平均をやや上回る 本校 全国平均を上回る
数学	山口県 全国平均をやや上回る 本校 全国平均を上回る	山口県 全国平均をやや上回る 本校 全国平均を上回る

（特徴的な事柄）

	よくできる	努力がいる
国語	本や文章などから必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書く。 目的に応じて資料を効果的に活用して話す。 伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く。 互いの発言を検討して自分の考えを広げる。 辞書を活用し、漢字が表している意味を正しく捉える。	文章の構成や表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えを具体的に書く。 文字の形や大きさ、配列に注意して書く。 集めた材料を整理して文章を構成する。
数学	一元一次方程式の解の意味を理解している。 四角形をその面と垂直な方向に平行に動かすと、四角柱が構成されることを理解している。 ひし形について対角線が垂直に交わることを、記号を用いて表すことができる。 具体的な事象における2つの数量の関係が、反比例の関係になることを理解している。 資料を整理した表から最頻値を読み取ることができる。 適切な事柄を判断し、その事柄が成り立つ理由を数学的な表現を用いて説明することができる。 問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる。	分数と小数の乗法の計算ができる。 具体的な場面で数量の関係を表す式を、等式の性質を用いて、目的に応じて変形できる。 平行線や角の性質を用いて、角の大きさを求めることができる。 一次関数 $y=ax+b$ について、変化の割合が一定で a の値に等しいことを理解している。 グラフの傾きを事象に即して解釈することができる。

学校では、実施後すぐに校内で自己採点をして、結果の分析を行い、以下のことが課題として明らかになりました。

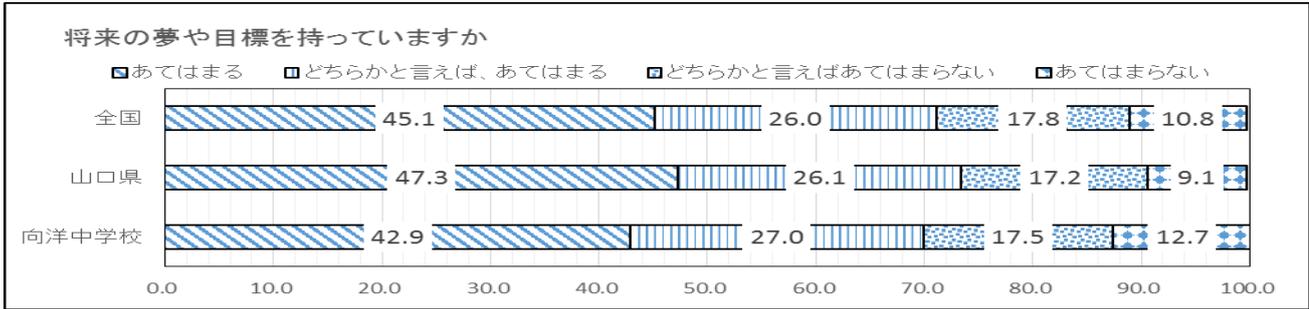
課題 「資料を読み取る力と自分の思いや考えを表現する力の育成」

本校の特徴から、上記のように課題を決め、生徒が表現する場を授業の中で多く設定することや、朝学等の時間を使って、読み取り問題や表現する問題に取り組みさせること、日常生活の中で読み取ることや適切に表現する習慣を身に付けさせるような指導を行うことなど、授業の中でも日頃の生活の中でも課題の解決に向けて取り組んでいる。

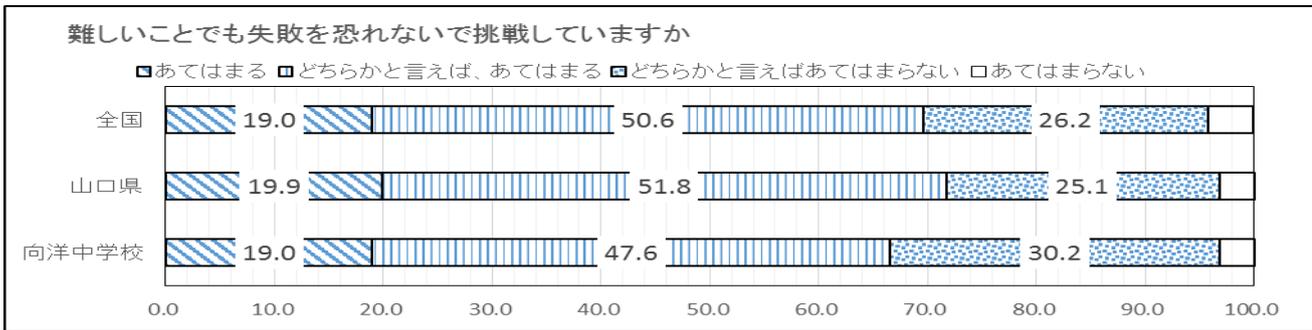
この調査では、生活環境や学習環境等に関する調査も行いましたので、その結果もお知らせします。

生活習慣や学習環境等に関する調査について

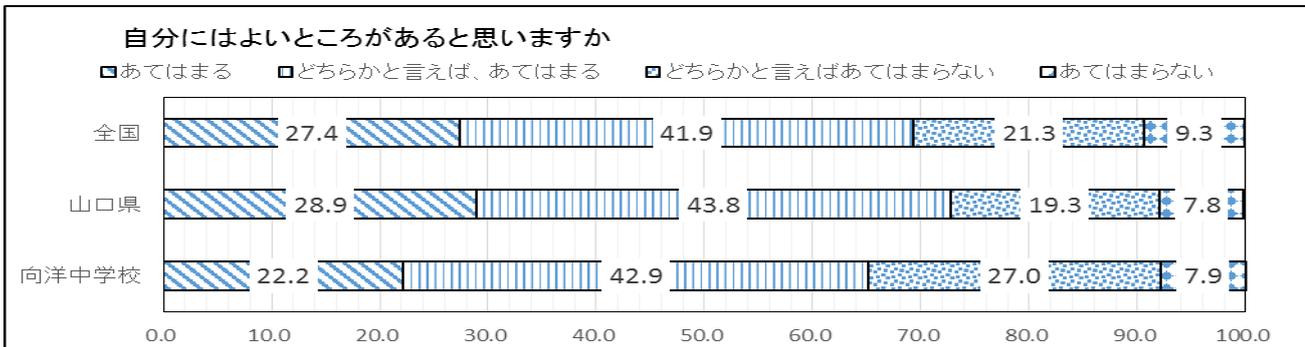
Q：将来の夢や目標をもっていますか



Q：難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか

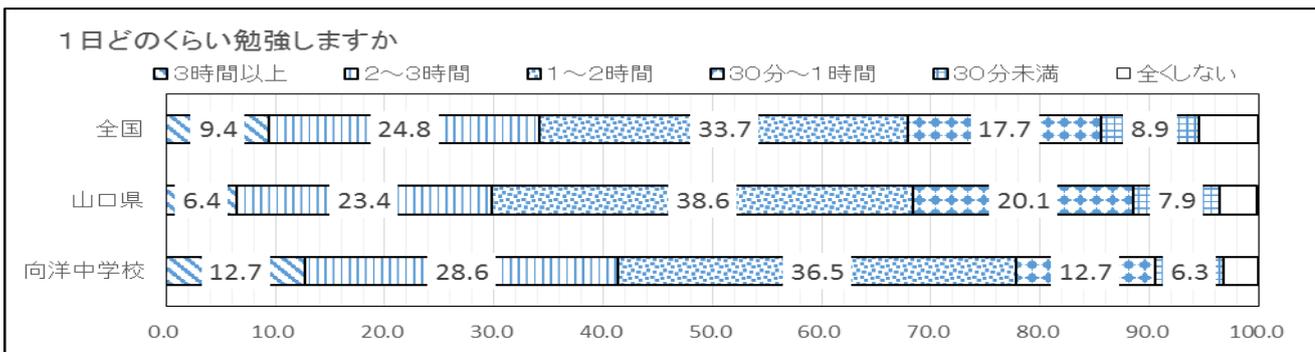


Q：自分には、よいところがあると思いますか



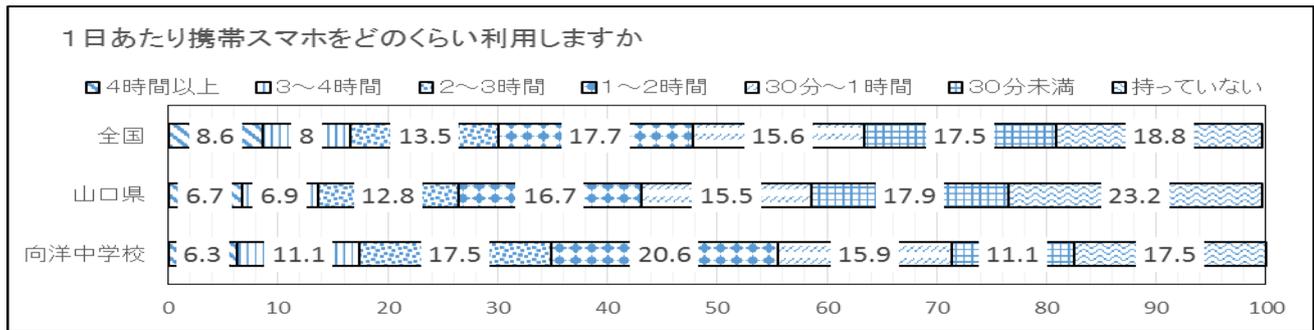
○将来の夢や目標をもっている、難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦する、自分にはよいところ(自己肯定感)があると思っている生徒の割合は、全国と比べてやや低い傾向にあります。「キャリア教育」の一環として、職場体験やボランティア活動などの体験学習を推進しながら、自信をもって取り組める(～ができる自分)ことや他者から認められること、自分のよさの発見につなげていきたいと考えています。

Q：普段(月～金)、学校の授業時間以外に、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか。(塾などの時間も含む)



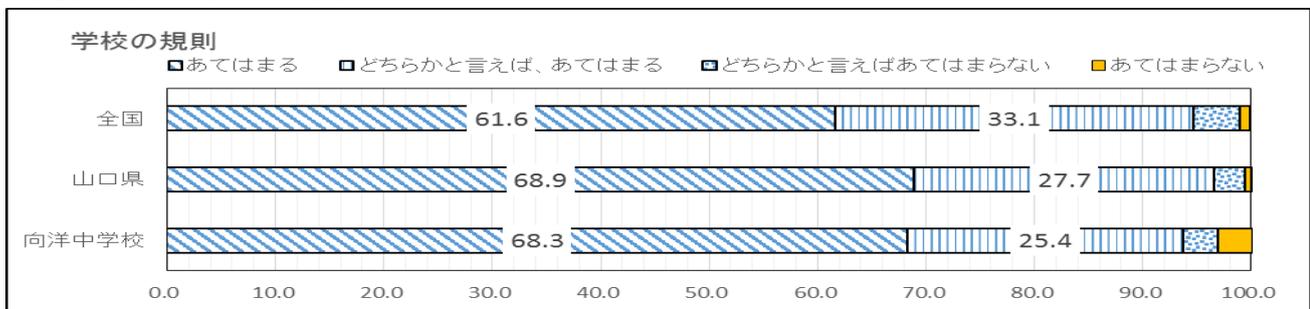
○1日の勉強時間は、「3時間以上」と「2～3時間」を合わせた割合は、全国と比べると上回っており、良い傾向にあります。

Q：普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか（携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く）



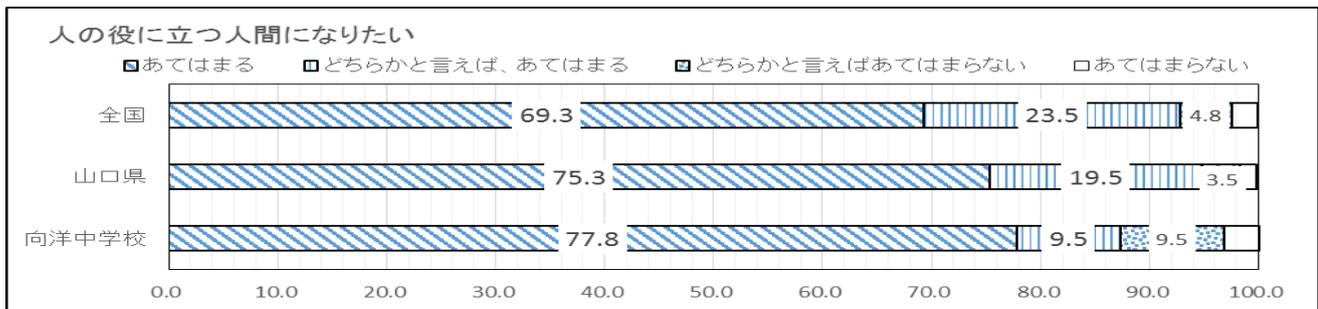
○本校の生徒の場合、携帯電話(スマートフォン)の利用が長時間に及んでいることが気になります。特に、2時間以上の生徒は、およそ35%で22人程度になります。日常生活の一部になりつつありますが、利用の仕方については各家庭でルールを決めて、よりよい使い方を考えることが大切になると思います。

Q：学校の規則を守っていますか

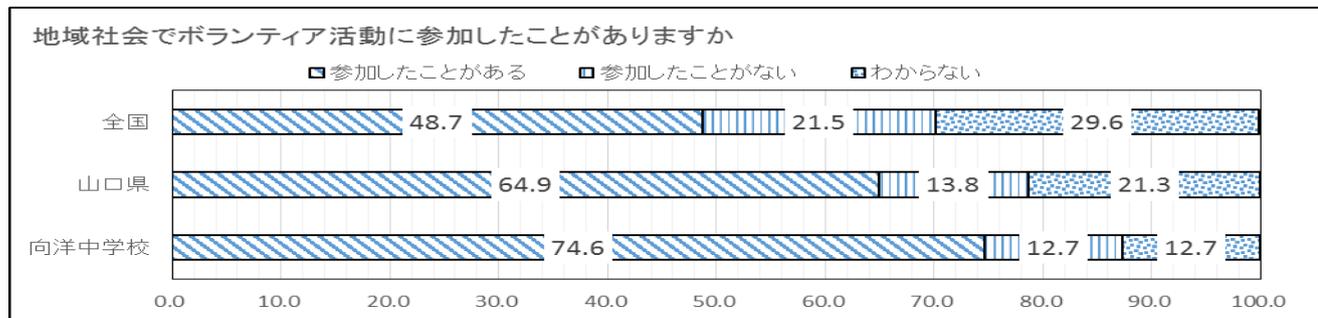


○規則を守ること（規範意識）については、「当てはまる」の割合が全国を上回っています。

Q：人の役に立つ人間になりたいと思いますか



Q：地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか



○人の役に立ちたい、地域や社会のために役に立ちたい（公共心・公德心）の2つのグラフを見くらべると、同じような傾向にあります。多くの生徒はその意義を理解していますが、「どちらかといえば、当てはまらない」「当てはまらない」と回答している生徒の割合が全国と比べても多いようです。地域でのボランティア活動など、関心は高まりつつありますので、活動の場をつくることも必要だと考えられます。